

【目指す姿】

進んで外国の生活や文化に親しんだり、外国語に触れたりしようとする子

英語教育・国際理解

	評価項目	評価基準	1学期			2学期		
			評価結果	評価	考察及び改善策	評価結果	評価	考察及び改善策
成果目標	英語を使ってコミュニケーションをしたり、外国のことについて調べたりすることが好きと答える児童を増やす。	児童・保護者アンケートで肯定的評価 A：80%以上 C：60未満  (児童アンケート) 「英語を話したり、外国のことを調べたりすることは楽しいですか。」 1学期：3～6年 2学期：1～6年  (保護者アンケート) 「お子さんは、外国のことに興味をもち、国際科の学習に進んで取り組んでいますか。」	児童 77.4%  保護者 66%	B	・児童アンケートでは、学年が上がるにつれて肯定的評価の割合が低くなっている。 ・今後の改善策としては、国際科の授業改善や保護者への周知を十分図ることによって目標値をあげていく。	児童 81.1%  保護者 61.9%	B	・児童の肯定的評価は高くなった。国際科の授業を楽しんでいる児童が多くなってきている。 ・保護者への周知、理解が今一歩なので、次年度は各種たよりや学習参観などを通じて国際科の授業についての保護者へアピールしていく。
チャレンジ1 教育活動	英語を使って楽しくコミュニケーションをとったり、外国の文化や習慣について学んだりする授業を実践する。	職員アンケートで肯定的評価 A：80%以上 C：60%未満  (職員アンケート) 「児童が進んでコミュニケーションを取ろうとするような授業や外国の文化や習慣に触れるような活動を実践することができた」	職員 90.9%	A	・英語専科、ALTが中心となって児童の意欲を引き出すような授業を工夫している。 ・今後の改善策としては、ハロウィンや国際交流会の準備や実践を行う中で外国への興味関心を高めていく。	職員 90.9	A	・英語専科、ALTが中心となって授業の準備や授業後のパスポートの確認などをしてもらい感謝している。1～3年生は担任とALTによるチームティーチングなので打合せを十分行い、楽しい授業が展開できるようにする。 ・ALTの終日勤務日が週に1日しかないため、次年度はALTの終日勤務日が2日になるように市教委に要望していく。
運営活動	・保護者・地域に積極的に発信活動を行い、地域の国際科に対する意識の向上、理解の向上を図る。	職員アンケートで肯定的評価 A：90%以上 C：70%未満  (職員アンケート) 「学年便りやHPを通して、国際科や国際理解教育について、家庭、地域に発信することができたか。」	職員 36.4%	C	・低学年は学年だよりで国際科の様子を紹介していたが、中、高学年は、学年だよりなどでほとんど触れることがなかった。 ・国際理解教育(交流会)が毎年3学期なので、もっと早い時期にできれば、児童や保護者の意識も変わってくるのではないかと。(来年度は国際交流会の時期を2学期にできないか検討する)	職員 71.4	B	・評価の数値から職員の意識や保護者に対する周知の姿勢は良くなってきている。 ・3学期は国際交流会があるので、その様子をたより等で発信していく。 ・次年度は国際科がある曜日に学習参観を入れるようにする。